

2010年11月10日

北陸電力株式会社
取締役社長 久和 進 様

ストップ! プルサーマル・北陸ネットワーク
共同代表 田 尻 繁
盛 本 芳 久
柚 木 光
堂 下 健 一
中 垣 たか子

申 入 書

貴社は去る6月28日、石川県と志賀町に対し、「プルサーマル計画」実施にともなう事前了解願いを提出しました。実はその四日前、プルサーマル実施が予定されている志賀原発1号機で「制御棒の誤挿入」という重大事故につながりかねない事故が発生していました。にもかかわらず、その事実を隠したまま地元自治体に「プルサーマル計画」実施を申し入れ、貴社が事あるごとに「安全第一」、「隠さない企業風土の構築」と謳っているのが、いかに口先だけのものであるか、あらためて印象づける結果となりました。

ところが8月中に、またしても1号機で、今度は制御棒が抜ける事故が発生していたことが、11月4日に原子力安全・保安院が原子力安全委員会に報告したことにより、明らかになりました。6月の誤挿入の際には、7月初旬に貴社のマンスリーレポート（6月分）で遅ればせながら公表されていたのに、8月の制御棒の抜け落ちは「軽微な事案だ」として公表されず、原子力安全・保安院の報告によって初めて、制御棒事故が再発していたことが判明しました。

長年にわたる臨界事故隠しが発覚した後、「再発防止策」が講じられたはずなのに、相変わらず制御棒事故が繰り返されているのです。このことは、「バルブの誤操作という単純な人為的ミスで制御棒が誤作動してしまう」という**沸騰水型原発の重大な構造的欠陥**に関して抜本的な改善策がとられていないことを示しています。そのうえ「**隠す企業風土**」もまったく改まっていません。

このような状態では、原発の危険性をさらに高めるだけの「プルサーマル計画」を認めることは、絶対にできません。下記項目について要望するとともに、回答を求めます。

記

1. 「プルサーマル計画」の事前了解願いを撤回し、「プルサーマル計画」実施を断念すること。
2. 石川県および志賀町と締結している原子力安全協定と連絡基準覚書を抜本的に見直すこと。
3. 6月29日に『ストップ! プルサーマル・北陸ネットワーク』が提出した「申入書」（別紙）に回答し、公的企業としての説明責任を果たすこと。

以上

